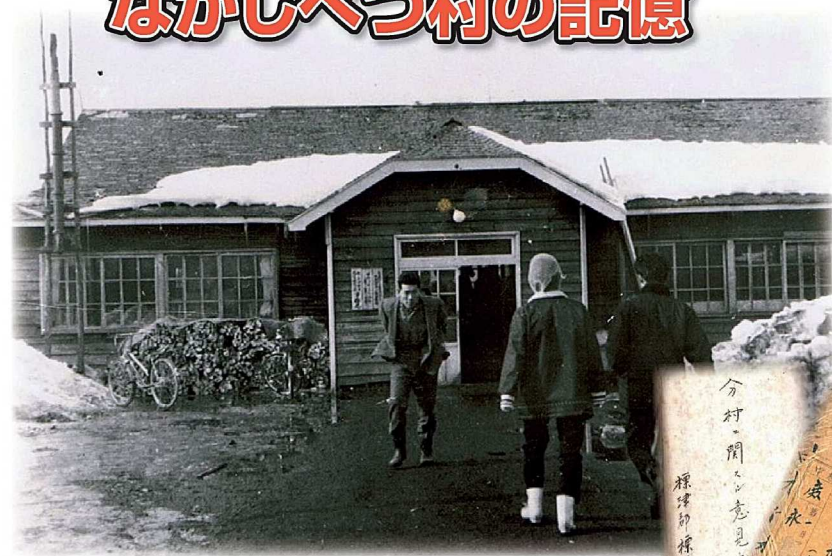


中標津町郷土館だより 第28号

発行:平成28年12月1日
発行所:中標津町教育委員会
標津郡中標津町丸山2丁目22番地
電話:教育委員会 (0153-73-3111)
郷土館 (0153-72-2190)
http://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan_web/index.htm

分村70年 なかしべつ村の記憶



▲旧村役場庁舎
(前身は旧海軍飛行場現場事務所。昭和33年からは公民館として利用されました。)



標津村からの分村

大正12年4月1日から二級町村制の施行により標津村が誕生し、行政、経済、教育、文化のすべては役場が位置する標津市街地を中心に行われていました。

しかし、昭和2年12月の北海道農事試験場根室支場の設置や昭和9年10月の国鉄標津線の開通により、中標津市街を含む内陸部の人口増加が進んだことにより「標津村役場庁舎の位置が偏在している」という声が高まるようになりました。

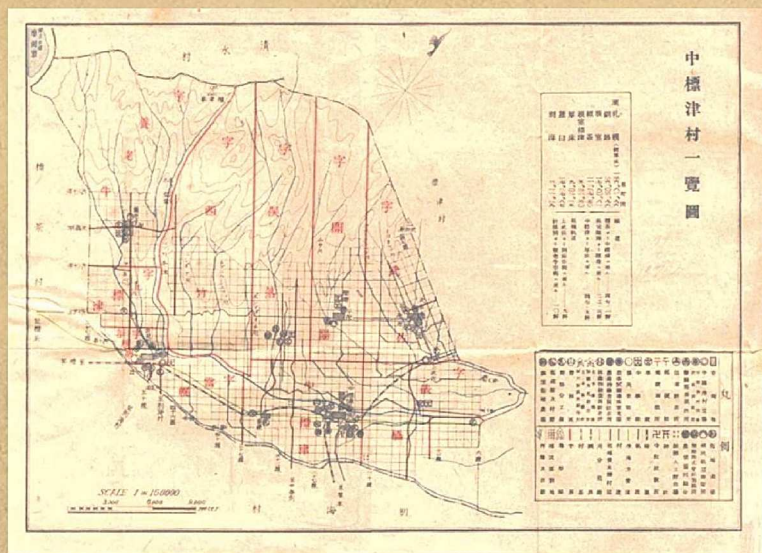
この動きは、昭和3年の村会で笠井要議員が「役場庁舎移転に関する建議書」を提出したことから始まり、昭和9年には小森作次郎議員が分村についての建議書を提出し、さらに昭和11年には役場庁舎移転についての建議書を提出しました。先の大戦によりこの議論は一時中断されましたが、昭和21年1月22日の第1回村会にて佐藤基平議員が提出した、「中標津分村に関する建議書」は全会一致で採択され、昭和21年7月1日に「中標津村」が誕生することになりました。



【史料】「北海道新聞」(昭和21年7月1日付発行、釧路市立図書館所蔵)は「けふ中標津村誕生」と題し、標津村から分村したことを報じました。



【史料】「北海道新聞」(昭和21年7月3日付発行、釧路市立図書館所蔵)は、「躍進中標津の歌」の歌詞を募集し、審査の結果、吉田潮氏の歌詞を選定したことを報じました。

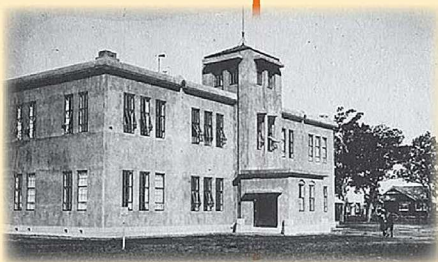


【史料】「昭和三十二年 中標津村勢概要」(中標津町役場史料室所蔵)

標津と中標津との町境は、昭和6年9月に植松村長が標津に事務所を置く標津同志産業組合と中標津に事務所を置く標津殖民地産業組合の両組合長を招いて協議し、植松村長の裁定により示された、各組合の取り扱い区域が基になっています。

分村までの道のり

中標津の分村は、昭和3年の役場庁舎移転問題に始まり、その後、実に19年もの歳月を経て実現しました。

年	昭和3年	昭和9年	昭和11年	昭和12年	昭和14年	昭和17年	昭和21年	
中標津の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ★前年には国費で北海道農事試験場根室支場が設置される ★翌年には殖民軌道の一部路線でガソリンカーが運行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ★中標津駅開駅 ★北海道製酪販売組合連合会が養老牛集乳所を開設 ★武佐郵便局で電話交換業務を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ★計根別駅通所廃止 ★標茶～計根別間の鉄道(標茶線)が開通 ★計根別駅開駅 ★計根別に日本粉化工業(株)根室工場ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ★標津線全線開通 ★帝国製麻(株)計根別製線工場上棟 ★当幌駅、上武佐駅開駅 	<ul style="list-style-type: none"> ★標津同志産業組合と標津殖民地産業組合が合併し、標津村信用購買販売利用組合を設立、中標津に事務所を置く 	<ul style="list-style-type: none"> ★陸軍計根別の第一飛行場建設工事開始 ★海軍標津第一航空基地(現中標津空港)建設のため農家の立ち退きが始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ★武佐郵便局が集配局となる ★中標津消防団発足 ★中標津村役場計根別出張所を設置 	
分村までの道のり	<ul style="list-style-type: none"> ●2月27日の村会で、小笠井要議員が「役場庁舎移転に関する建議書」を提出。 ☞具体的な内容ではなかったことや、時期尚早とのことで採択されることはありませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●11月5日の村会で、小森作次郎議員が「標津村を現在の産業組合区域を村界として、分村の準備調査を実施せられんことを望む」という建議書を提出。 ☞採択はされましたが、具現化されることはありませんでした。 	<p>中標津への庁舎移転運動ははじまる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2月の村会では、「分村」で提案するよりも「役場庁舎移転」の方が実現可能とみて、中標津地区に役場庁舎を移転することを目論み、「役場庁舎移転」という建議書を小森作次郎議員が提出。 	<p>計根別地区新村計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●この頃、計根別地区でも新村計画が亀子卓氏らによって進められており、その区域は計根別、上春別、西春別、本別、上西別を含むものであった。 	<p>10月11日村会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●佐藤甚平議員が「標津村役場を中標津市街地の適当な場所に移転せられん事を望む」という緊急動議を提出。 ☞予定された動議にも関わらず、3時間半にわたる大激論となりました。 ☞植松適標津村長は、国鉄根北線(標津～斜里)の敷設計画や計根別地区の分村問題もあるため、「判断しかねる」という意見を述べました。 その後の採決で可否同数であったことから、議長がこれを保留したところ、この採決に中標津地区選出議員達は激昂! 中標津市街は騒然となり、共楽座(劇場)で植松適標津村長の弾劾住民大会が開かれました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●6月、道庁の山川地方課長、藤森根室支庁長が実態調査をおこなったが、当時は太平洋戦争に突入したばかりであるため、分村どころではないとの結論となった。 ●7月22日付の釧路新聞で「計根別周辺の新村計画」が掲載され、分村はほぼ確実であるように報じられた。 ●8月、702名の連署による標津からの分村についての陳情書が提出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1月23日、第1回村会は定員24名(欠員2名)中、出席19名。佐藤甚平議員が「中標津分村に関する建議書」を提出。 午前11時に全員一致で採択された。 	
	 <p>旧北海道農事試験場根室支場庁舎</p>		 <p>中標津村役場</p>				 <p>開陽停留所に停車するガソリンカー</p>	 <p>植松適村長の弾劾住民大会が開かれた共楽座(劇場)</p>

【分村可決の背景】

- ・内陸部の入殖者が海岸部に隷属している、という感情が胸のうちにあった。
- ・内陸部の人口増加により議会議員数が増加し、発言力が大きくなった。
- ・標津線開通により、接続点であった中標津が内陸の中心として物資が集まるようになった。

7月1日 中標津村誕生!



◀「釧路新聞」(昭和17年7月22日付)は計根別地区の新村計画がほぼ確実なものであると報じた。